

事項二〇 極東共和国関係雑件

九八二 三月九日

在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛

極東共和国大統領ヨリ米国新大統領宛並憲法
議会議長ヨリ米国上下両院議長宛祝電ニ付報

告ノ件

軍政送第一号

(三月十八日接受)

大正十年三月九日

浦潮派遣軍政務部長 菊池 義郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「クラスノ」及「シロフ」ノ「ハルディング」ニ

送リタル祝電ノ件

「チタ」来電トシテ当地新聞ニ公表シタル処ニヨレハ「ハ
ーディング」就職ニ対シ「クラスノ」ハ極東共和国大統領
兼外相ノ名ニ於テ大要左記(甲)ノ如ク新大統領ニ、又憲法議
會議長「シロフ」ハ米国上下両院議長ニ対シ(乙)ノ如ク夫々
祝電ヲ送リタリ

記

(甲) 若キ極東共和国々民ノ名ニ於テ貴下ガ自由ナル北米大共
和国ノ高地位ニ就任セラレタルヲ祝ス、極東住民ハ外国
干渉及自由独立ノ生存ニ対シ長日月奮闘ノ結果真ノ民権
及自活權ノ宿望ハ実現セラレタリ、普通選挙法ニヨリ選
挙セラレタル社会ノ各階級ヲ代表セル憲法議會ハ今ヤ首
都タル「チタ」ニ議事ヲ進メ国法ヲ制定シツツアリ、大
米の「デモクラシー」及理想ノ光輝アル範例ハ悲惨ナル
破壊ト戦ヒツツアル吾国民ニ取り真箇ノ靈化激励タルモ
ノナリ、余ハ吾ガ国民及其代表者ガ米国の自由及自決ノ
理想ニ忠実ナル新貴政府ガ吾ガ若年ノ共和国ヲ援助シ且
ツ承認センコトヲ確信期待セルヲ民意トシテ謂ハントス

(乙) 文明世界ノ最危機ニ当リ貴新政府及両院ガ北米大共和国
ノ運命ヲ把握セラレタル秋ニ際シ極東共和国民ノ代表タ

ル吾人ハ自由国民ノ代表者タル諸君ニ祝意ヲ表ス、我極
東諸州ガ外国侵害ト其干渉ニ基因スル内乱トノ戦場ト化
シタル茲ニ年アリ、欧露及悉比利亚ト隔絶セラレタル極

東ラシテ対露戦ノ基点タラシムルヲ欲セザル当地住民
ハ拳テ自力ニヨリ自由ナランコトヲ期シ今ヤ内敵ハ敗北
シ外国干渉軍モ跡ヲ払ヒ地方平定ニ帰シタルモ只南部沿
海州ニ於テ「セメノフ」一派ガ不法ナル日本軍ノ駐屯ヲ
利用シテ不法行為ヲ履行シツツアルノミ、我領内ニハ
「ソウェト」露西亜ト分離セラレ政体ヲ異ニセル独立民
主的新国家建設セラレントシ之レガ任ニ当レル社会各階
級ヲ代表セル憲法議會ハ貴共和国ノ感激ト支援トラ求メ
ツツアリ我國民ハ自由及自治主義ニ忠実ナル貴政府及
「コンGRES」ガ吾人ノ干渉排斥独立自存ノ戦ニ於テ
我ガ若キ共和国ヲ援助セラレントヲ切ニ期待ス

右及報告候 敬具

九八三 四月十八日

在本邦米国臨時代理大使
植原外務次官 会谈

在本邦米国大使館員ヲ極東共和国ノ情况視察
ノ為派遣ニ関スル件

四月十八日米国代理大使「ベル」氏植原外務次官ヲ来訪シ
語リタル要旨左ノ通り

米国政府ハ今回当地米国大使館附商務官「アボット」氏及
武官補「デヴィス」中佐ヲ「チタ」ニ遣ハスコトニナリタ
ルニ付若シ自分ニ於テ日本政府ニ通報スルコト望マント思
考スルニ於テハ左様取計フヘキ旨訓令シ来レリ尤モ右ハ單
ニ經濟上、政治上ノ状態ヲ視察スルヲ目的トスルモノニシ
テ何等「チタ」政府ト交渉スル權能ヲ附与セル次第ニアラ
ズ自分ノ承知スル処ニ於テハ米国政府ニ於テ從來ノ對露方
針ヲ變更セントスル意思ヲ有セズ米国政府ハ從來露国ノ辺
境諸国ヲ承認セザル方針ニテ芬蘭及波蘭ヲ除ク外ハ承認シ
居ラズ從テ此際「チタ」政府ヲ承認スル等ノ意思ハナキモ
ノト思考ス、右一行ハ二十二日東京出發二十三日敦賀発ノ
汽船ニテ浦塩ニ赴クニ付右予メ誤解ナキ様内報スル次第ナ
リト述ヘ敦賀官憲ニ便宜附与方取計アリタキ旨依頼セリ
次官ハ右ニ対シ目下「チタ」ニハ我陸軍ヨリ三毛少佐ヲ派
遣シ居ルモ其目的ハ單ニ情報ノ蒐集ニ止マリ他ニ何等ノ權
限ヲ有セズ外務省ヨリハ過般渡辺領事ヲ同地ニ派遣シ置キ
タルモ一旦浦塩ニ歸ラシメ更ニ再ヒ「チタ」ニ派遣セント

セシモ浦塩方面人員不足ノ為其儘ニ過キ居ルモ何時再ヒ同人又ハ他ノ者ヲ視察ノ為メ派遣スルヤモ知レザル旨答ヘタリ

九八四 四月二十七日

在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

チタ議會ヨリ英仏両国政府宛同文通牒ヲ以テ
日本軍ノ西比利亞駐兵継続ニ関シ質問ノ件

第二三七号

(四月二十八日接受)

四月十八日齊多議會カ決議シタル英仏両国政府宛同文通牒写ハ「コゼウニコフ」ヨリ在当地両国領事ニ交付セラレ当地新聞ニ發表シタルカ其ノ概要左ノ通

冒頭ニ於テ日米兩國ノ西比利亞出兵ニ関スル宣言ヲ領シタル後英仏伊カ之ヲ確認シタル所ニ依レバ聯合國出兵ノ目的ハ日米ハ「チェツクスロヴァツク」援助英仏伊ハ独逸ノ侵圧ニ対スル露國援助ニアリ何レモ目的達成ノ後ハ撤兵スルコト及露國ノ主權及領土の侵害ハ為サス若シ聯合國ノ一カ之ニ違反スルトキハ与国ハ之カ責ニ任スル旨ヲ明言セリ依テ民主的自由及各国トノ平和共存主義ヲ基礎トスル新國家ヲ完成スル為集合セル極東民主共和国憲法議會ハ貴政府並

浦參謀五〇六号知多電

(七月九日外務省写接受)

「チタ」政府機關紙ノ報ニ依レバ「ユーリン」ハ六月二十日交通省従業員ノ集会ニ於テ左ノ報告ヲ為セリト参考迄

一、労働露國ハ日ニ鞏固トナリツツアリ

二、米國ハ新大統領トナレルモ未ダ態度ヲ變ゼズ露國ノ研究ヲ続け同情ノ言ヲ弄シアルノミ然レトモ米國ハ露國殊ニ支那ニ利害關係ヲ有シ日本ノ侵略ヲ恐ルルヲ以テ近キ将来ニ於テハ積極的ニ出ツヘク吾人ハ之ト妥協シ我カ目的ヲ達スルヲ得ベシ

三、支那ハ統一ヲ欲キ中央政府ハ其ノ無力ナルヲ自白シアルモ承認セラレアル政府ナルヲ以テ輕視スル能ハズ支那政府ハ露國ト協同スルヲ自國ヲ救フ所以ト解シアルヲ以テ第一ニ露國ヲ承認スルモノハ支那ナリ

四、仏國ハ日本ノ如ク露骨ニ過激派ト戦ヘリ東支鐵道ニ其ノ資金多キモ一原因ナリ要スルニ仏國ヨリハ尚幾多ノ迫害ヲ受クヘク或ハ「ウランゲル」軍ヲ極東ニ輸送スルヤモ知レズ

五、日本ハ極東ニ重大ナル關係ヲ有シ其ノ一部ノ占領ヲ欲スルト共ニ日米關係ヲ顧慮シ将来ノ安全ヲ計ル為特ニ極

ニ貴國民ニ対シ左ノ通通告ヲ發ス

「チェツクスロヴァツク」軍ハ既ニ昨春撤退シ対独戰爭ハ終了シ日本軍以外ノ聯合軍ハ何レモ露領ヲ撤退セリ日本軍ハ撤退セザルノミナラズ薩哈唎州ヲ占領シ漁業權ヲ強奪シ逐次口実ヲ設ケテ露國ノ主權ヲ無視シテ内政干涉ヲ為シ反革命派ヲ助ケテ内乱ヲ助長シ以テ露人ノ平和生活ヲ妨害シテ止マズ依テ本議會ハ貴政府ニ対シ左ノ質問ニ対スル弁明ヲ求ム

(一)貴政府ハ千九百十八年八月ノ宣言ヲ有效ノモノト認ムルヤ

(二)干涉当初ノ目的ハ達セラレタルヤ

(三)右目的達成セラレタリトセハ(a)何故ニ宣言ヲ發セラレザルヤ(b)日本駐兵ノ理由如何

四)日本政府ノ對極東行動默認ノ理由如何

云々

九八五 七月六日

浦潮派遣軍參謀長ヨリ
參謀次長宛(電報)

米中仏三国及日本ノ對露態度ニ関シ極東共和国
国外相ユーリンノ或集会ニ於テ行ヘル報告演
說ニ関スル件

東ニ自己ニ有利ナル政府ヲ建設セント欲ス米國モ亦同様ナリ日本ハチタ民主的政府ヨリ支援ヲ受ケ得ルヤ否ヤヲ疑フト共ニ「セ」「メ」ガ國民ノ信望ナキヲ知レリ又日本ハ何ノ得ル所ナク撤兵スルヲ欲セズ然リトテ薩哈唎ヲ占領セバ米國ト事端ヲ生ゼンコトヲ恐ル又日本ニ必要ナルハ極東ヨリモ寧ロ支那殊ニ蒙古ノ原料品ニアルヲ以テ「ニキホロフ」「ビナシク」ニ秋波ヲ送り「アントノーフ」カ浦潮ヲ去ルニ臨ミテモ秋波ヲ送レリ真ノ民主國タル露國ハ國家建設ノ為國民ノ全力ヲ利用シ得ベシ故ニ吾人ハ一九一七年独逸ト談判セシ如ク日本ト協約シ彼ニ特典ヲ与フルコトヲ要セス米國モ亦何等カノ要求ヲ為スヘキモ吾人ハ國民ノ一致團結ヲ以テ決シテ奴隸化スルコトナク國民の自由ヲ固執スルヲ得ベシ

其ノ他聴衆ノ質問ニ対シ次ノ如ク語レリ

(イ)「コゼ」一個人ノ資格ヲ以テセバ日本軍ハ通過ヲ許スト云ヘルモ「コゼ」ハ拒絕セリ

(ロ)外國干涉ヲ武力ニ依ルコトナク平和的ニ解除スヘク言明セリ

(ハ)經濟封鎖ハ通商條約ナキ為メ事実上行ハレアルニ同シ

従ッテ東支鉄道ニ物資ヲ搬出スルコトモ危険ナリ

(次長、次官、関東軍参謀長、北京済)

註「セ」ハ「セミヨーノフ」「メ」ハ「メルクーロフ」「コゼ」ハ「コゼウニコフ」

九八六 九月十六日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

チタニ於ケル米人ノ活動等チタト米国トノ関係探知方訓令ノ件

第二〇号

近時米国側ハ齊多側ニ物資殊ニ鉄道材料ヲ供給セントスル目的ヲ以テ活動シツツアリトノ情報アリタル処右ハ虚構ノ風説ニ非ズヤト存ゼラルルモ曩ニ「アボット」ノ滞在スルアリ近ク又永井政務部長代理ヨリ貴方ヘ転電ノ管ナル同代理宛往電第一一六号所報「カルドウェル」ノ出張ヲ見ントスル等ノ事実アルニ照ラシ何等カ齊多側トノ間ニ話合アルニ非ズヤトモ想像セラルルニ付貴官ハ夫レトナク先方ニ就キ齊多ニ於ケル米人ノ活動等兩國ノ関係ニ付御探知ノ上回電セラレタシ尚此ノ種質問ハ齊多側ノ駆引ニ利用セラレ易キヲ以テ申ス迄モナキコト乍ラ此ノ点ハ篤ト御注意アリタ

極東共和国ノ政府首脳異動ノ件

第六号

十九日チタ発タルタ電報ニ依レハ「クラスノシチョコフ」ハ病氣ノ為辭職シ後任トシテ政府首班ニアムール派ノ「ニコライ、マトウエフ」補佐ニ同系ノ「シイロフ」選バレタリト

九八八 九月二十一日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)等宛
(電報)

華府会議ヘノ極東共和国代表ノ参加要請ヲ米
国政府拒絶ノ件

合第二九八号

在米大使来電第六二二号(九月二十一日)

九月十九日国務省ヨリ左ノ通公表アリタリ

在北京米国公使館ハ最近極東共和国ノ agent ヨリ同国代表者ヲ極東問題ノ議セラルヘキ今回ノ軍備縮小會議ニ参加セシムヘキ請求ニ接セリ米国政府ハ之ニ対シ極東共和国ガ米国其ノ他ノ諸国ニ依リ未ダ承認セラレザル事情ニ鑑ミ何等正式回答ヲ発セザリシモ在北京米国公使館ニ訓令シ大様左ノ通極東共和国ノ agent ニ伝フベキ旨申送レリ

二〇 極東共和国関係雑件 九八八 九八九 九九〇

シ

註 九月十三日外務大臣発永井政務部長代理宛第一一六号ヲ省略ス右ハ在神戸米国領事「カルドウェル」ガ視察ノ為チタ出張ヲ命ゼラレタルコトヲ通報セルモノナリ

九八七 九月十八日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

チタ側ト米人側トノ接触ノ状況ニ付回電ノ件

第一九号

貴電第二〇号ニ関シ浦塩ニ在ル「スミス」一派ガ知多側ト常ニ文通シツツアリシ事実殊ニ本官ガ浦塩出発ノ前日内密ニ入手シタル「クック」ノ「クラスノシチョコフ」宛書翰(政務部ヨリ報告シタルコト信ズ)及当地米国領事カ頻繁ニ「ユーリン」ト往復シツツアルコトニ徴スルトキハ米国側ガ知多側ニ物資供給其ノ他ニ関シ画策シ居ルハ確實ト見テ間違ナルカルベシ從テ本官ハ貴電末段ノ御注意モアリ余程都合良キ機會アルニ非ザレハ本件ニ触レザル積リナリ

九八八 九月二十日 在ハルビン丸田総領事代理ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

In absence of a single recognized Russian Government, protection of legitimate Russian interests must devolve as moral trusteeship upon the whole Conference. It is regrettable that the Conference for reasons quite beyond the control of the participating Powers is to be deprived of advantage of Russian cooperation in its deliberations, but it is not to be conceived that Conference will take decisions prejudicial to legitimate Russian interests or which would in any manner violate Russian rights. It is hope and expectation of Government of United States that Conference will establish general principle of international action which will deserve and have the support of people of Eastern Siberia and of all Russia by reason of their justice and efficacy in settlement of outstanding difficulties.

九九〇 九月二十一日 在紐育熊崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米国务務長官ノ西比利亜ニ関スル宣言書ニ対
スルトリビューン紙ノ論評報告ノ件

第三七五号

(九月二十三日接受)

九月二十一日当地発行「トリビューン」ハ十九日発表セル
国务務長官ノ西比利亜ニ関スル宣言書(在支米国公使ノ発表
セルモノ)ニ評論ヲ加ヘ『来ル華府会議ニ於テ参列国ハ德
義の管理者トシテ露国ノ正当利益ヲ保護セサルヘカラス』
云々ハ過激派ノ歡迎スル所トナルヤ疑ナク併モ宣言書ハ
「ウィルソン」氏ノ所謂前ノ露西亜帝国ノ領土保全主義ヲ
更ニ確認セルモノノ如シ抑モ国务務長官ハ本宣言ヲ発表スル
ニ当リ平常ノ如キ正確ナル研究ヲ缺キ居ルコト事實ナリ即
チ解釈上疑点ヲ挾ミ易キ「露国正当利益」ナル句ヲ使用シ
露領西比利亜ノ領土保全ハ維持セラレサルヘカラストノ率
直ナル宣言ヲ為サス

又宣言書中米国政府ハ華府會議カ正義ノ擁護ト紛争ノ解決
ノ為東部西比利亜及全露国ノ人民ヲ援助スヘキ國際的行動
ノ一般原則ヲ設定センコトヲ望ム云々ノ句アルガ是レ西比
利亚ニ門戸開放主義ヲ適用セントスルノ意ナリヤ若シ然リ
トセハ是レ我極東問題ノ一ニ西比利亜問題ヲ引入レントス

ル意ナルカ

何故ニ吾人ハ将来前ノ露西亜帝国ト等シク不良ナルカ或ハ
夫レヨリ更ニ不良ナルヘキ帝国トナルヘキ見込アル東部西
比利亜ノ為ニ德義の管理者ノ一トナラサルヘカラサルカト
結論セリ

大使ヘ郵報ス

九九一 十月十四日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

華府會議ニ参加ノ為極東共和国代表者ノ非公
式渡米ニ関シ新聞通信員内話ノ件

第六七四号

「チャイナ、プレス」及「ルーター」通信員ノ内話ニ依レ
バ米国政府ハ曩ニ極東共和国代表ノ華府會議参列ヲ拒絶シ
タルモ其ノ実西比利亜問題討論ノ参考トシテ齊多代表者ノ
非公式渡米ヲ希望スル旨内報シ来リタル為陸軍武官「ドラ
イスデイル」中佐(近日會議ノ為帰国ノ筈)ト中美通信ノ
「バー」斡旋シ齊多側ヨリ両三名ヲ米国政府顧問ノ名義ニ
テ渡米セシムルコトナレリト、尚「グラীব」ハ右ニ関
シ何等確聞セザルモ哈爾濱ノ過激派新聞ニ米国政府ハ齊多

松島、在中国公使ヘ転電セリ

九九三 十月二十二日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

神戸駐在米国領事カルドウエルノチタ出張ニ
関スル件

第六八七号

(十月二十二日接受)

先頃来京セル神戸在勤米国領事「カルドウエル」ハ今明日
中齊多ニ向フ筈ナリ同氏カ一、二米国新聞記者ニ内話シタ
ル所ニ依レバ齊多行ノ目的ハ少クトモ三ヶ月間滞在シ非公
式ニ齊多政府ト接触シ且西比利亜方面ノ情報ヲ米国政府ニ
報告スルニアリト

註 本電ハ十月二十五日発合第三三一号ヲ以テ外務大臣ヨリ大連

出張松島政務部長在浦潮永井政務部長代理及在ハルビン丸田

総領事代理ヘ転電セラレタリ

九九四 十一月二日

浦潮派遣軍参謀長ヨリ
参謀次長宛(電報)

満洲里特務機關ニ依ルチタ政府ノ内外政策観

電報ノ件

浦参特一〇二 極秘

(十一月七日外務省写接受)

信スヘキ密偵報ヲ基礎トシ斉多方面ノ諜報ヲ総合セル満洲里特務機関ノ斉多政策観左ノ如シ

斉多政府ハ日本軍ノ撤兵カ大連會議ノ結果如何ニ関セス内政ノ關係上来年夏期迄ニハ実施セラルヘキモノト確信シ且日本軍浦潮駐兵間ハ「メルクルーフ」政府転覆ノ如キ積極的企画ヲ許ササル実情ニ鑑ミ大要左ノ如キ新方針ヲ基礎トシ内政外交ヲ律スルモノノ如シ

一、大連會議ニ対シテハ政府トシテ其結果ニ何等ノ期待ナキモ斉多政府ヨリ進テスル會議ノ中止ハ内外ニ対シ政府ノ信望ヲ失ヒ日本ノ感情ヲ害シ其政策ニ變化ヲ来スノ恐アリ故ニ来年夏期迄曖昧ノ態度ヲナシ日本ノ悪感情ヲ求メサル如キ口実ヲ以テ交渉ノ遷延ニ努ム

二、「メ」政府トハ絶対ニ妥協ノ余地ナキモ日本軍駐兵間積極的行動ニ出ツルモ成功ノ望ミナキニヨリ之ヲ中止シ唯其ノ軍隊ニ対シテハ宣伝ニヨリ之カ切崩シニ努メ為シ得レハ日本軍撤退迄ニ該政府ノ自発的崩壊ヲ画ス之カ為南部沿海州ニアル軍隊ノ大部ハ逐次黑竜州方面ニ召還ス三、労働政府ヨリ財政援助ノ期待シ得サルニ至ルヲ以テ機ヲ見テ軍隊ノ縮小勤務員ノ淘汰ヲ行ヒ大ニ生産方面ニ力

ヲ致ス之カ為ニハ一時主義上ノ要求ヲ犠牲トスルコトアルヘキヲ予想シアリ之カ為其實施ニ妨害トナルヘキ過激派分子ハ逐次敬遠シツツアリテ彼ノ「カラランダシェウイリ」ノ如キモ其一人ト目セラレ斉多政府ハ莫斯科政府ニ申請シ彼ヲ新ニ「バルチザン」編成事業ニ従事セシムヘキ口実ノ下ニ高加索地方ニ招致セシメタリ

四、内政ニ関シテハ「ニキ」一行ノ各地視察ノ結果一般民衆カ現状維持ヲ望ミ革命ヲ厭ヒアルニ鑑ミ当分積極的手段ヲ中止シ諸所ニ蠢動シアル反政府軍ニ対シテモ民衆カ其ノ必要ヲ叫フニ至ル迄ハ討伐ヲ敢テセス

以上ハ要スルニ斉多政權カ近ク日本軍ノ撤退ヲ見込ミ我出兵ヲ無意味ニ終ラシメントスルモノニシテ遽ニ信ヲ置キ難キ点アルモ現時ノ狀勢ニ徴シ有リ得ヘキ策ト觀察セラルト参考迄（次長次官松島濟）

九九五 十一月四日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

ダリタ通信員ノ日本入国許可条件ニ付訓電ノ件

第四四号

貴信公第六号ニ関シ

「ダリタ」通信員ニシテ検閲、警察取締等ノ法規ニ服シ過激派の宣伝ヲ行ハザルコト確実ナルニ於テハ其ノ入国ハ之ヲ許可シ差支ナク又其ノ場合我方ヨリモ通信員ヲ斉多ニ派遣シタク既ニ東方通信ヨリ派遣方打合済ニ付貴官ハ右通信員ノ生命、身体及通信自由ノ保障ニ付斉多側代表者ト交渉セラレ其ノ結果電報アリタシ

九九六 十一月二十六日 華府會議全權ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

極東共和国ノ現状ニ関シ西比利亞ヨリ帰米ノ
スミスノ談話新聞ニ掲載ノ件

會議第八〇号 （十一月二十九日接受）

西比利亞特別委員會米國委員タリシ「スミス」ハ最近当地ニ来リ西比利亞ノ実況ヲ米國政府ニ報告シタル趣ナルガ十一月二十五日「ウォールド」紙ハ其ノ会見談ヲ二欄ニ亘リ掲載シ居レリ之ニ依レハ「スミス」ハ極東共和国ハ帝政派「カッペリ」派投機者流財産家ヲ除キ全露西亞国民ノ信ヲ受ケ居リ近ク憲法議會ヲ召集セヘク政府者ハ総テ真ノ愛國者ニシテ一大民主國トナルノ道程ニ在リトテ之レヲ称揚シ

之ニ対シテ唯一ノ障害ヲ為スモノハ日本人ニシテ例ヘバ本年五月ノ「クーデター」ノ黒幕ニハ日本カ存在スト云ヒ転シテ星野中將カ鉄道委員會ノ協定ヲ無視シテ西比利亞鐵道ヲ占領シタル事実ヲ挙ケテ日本軍憲ハ西比利亞鐵道ノ運行ヲ妨害シ居レリト語リタル趣ニテ右記事ハ同日二三他ノ新聞ニモ掲載セラレタリ

九九七 十二月八日 華府會議全權ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

極東共和国代表一行華盛頓ニ来着及声明書發表並其動靜報告ノ件

會議第一七〇号 （十二月十二日接受）

Yazikoff ヲ長トシテ Skvirsky, Karavaeff, Farbman ヲ以テ組織スル極東共和国代表一行十二月五日当地ニ来着スルト同時ニ陳述書ヲ發表シ其大要ハ当地二三新聞ニ掲載セラレタルガ極東共和国代表者来華ノ目的ハ第一ニ西比利亞ヨリ日本軍ノ撤退ヲ要求スルコトニシテ次ニハ諸外國ト貿易關係ヲ開始シ斉多政府ノ承認ヲ求ムルニ在リト為シ更ニ極東共和国ノ政策ハ労働政府ト親善ヲ計ルニ存シ露国民ハ勿論「インテリゲンチア」階級ト雖労働政府ノ下ニ結束セ

ムコトヲ欲シ農民モ亦莫斯科政府ノ新經濟政策ヲ悦ビ同政府ヲ支持セムコトヲ希望シ居レリ云々ト発表シ居レリ
尚右一行ハ当地着後直ニ「ファアルプマン」ヲ國務省ニ遣ハシ外交官ノ特權トシテ一行ガ「シアトル」港ニ於ケル税関倉庫ニ残シタル手荷物ノ無検査通関方ヲ要求シタルガ國務省ニ於テハ米國ノ承認セザル政府ノ代表者ニハ其特權ヲ認ムルコトヲ得ザル旨ヲ答ヘ次ニ「ファアルプマン」ガ國務長官ニ於テ齊多代表ヲ接見セラレムコトヲ要求シタルニ對シ國務省ニ於テハ之ヲ拒絕シ極東課長ヲシテ面談セシメムコトヲ答ヘタル趣ナルガ翌日「ヤジコフ」自ラ國務省ニ出頭シ同行ニ對シ外交官ニ準ズル特權ヲ与ヘラレムコトヲ要求シタルモ終ニ成功セザリシトノコトナリ
尚露國帝政派ニ屬スルモノモ当地地方ニ於テ相當宣伝ヲ試ミ居リ千九百十六年ノ日露秘密協約ノ破棄及白人ニ依ル西北利亞ノ開發等ヲ主張シツツアリ

註 右全文ハ十二月十二日大連出張中ノ松島政務部長宛參考トシテ転電セラレタリ

ルチザン」ノ成功ハ一時的ニシテ彼等ハ農民其ノ他住民ノ同情ナキヲ以テ顧慮スルニ足ラズ政府ハ自分ノ帰還スル迄何等積極的對策ヲ講セサルヘントノ意ヲ「ダルタ」通信員ニ語レリ但本宣伝ハ土地柄当地ニ於テハ左シタル效果ナカルヘシ

北京、大連、政務部へ転電セリ
註「ブリュヘル」ハチタ政府ノ陸相

九九九 十二月二十九日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使在中國小幡公使
松島政務部長在浦潮松村總領事
各宛(電報)

チタ國民議會ガ日本軍ノ白軍援助等ニ関スル
決議ヲ為シ之ヲ米國政府宛電報シタル件ニ付
在本邦米國大使來談ノ件

合第四三〇号

本月二十日在本邦米國大使本大臣ヲ來訪シ今回齊多國民議會ハ沿海州ニ於ケル白軍ノ成功ハ日本軍ノ援助ニ由ルモノニシテ日本ハ大連會議ニ於テ露領ニ於ケル永久駐兵ノ要求ヲ為セリトノ意味ノ決議ヲ米國政府ニ電報シ尚在浦塩米國領事ヨリモ日本側ニ不利ナル報道國務省ニ達シタル趣ナル

九九八 十二月十三日
在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
チタ政府首班ガ國民議會ニ於テ沿海州白色パ
ルチザンノ進撃ハ日本ノ所為ナリトテ日本攻
撃演説ヲ為シタル件

第二五三号

沿海州白色「パルチザン」進撃ニ関シ本月九日ノ「チタ」國民議會ニ於テ政府首班「マトベエフ」外相「ヤンソ」ハ本内乱ノ再燃ハ日本之ヲ為スモノナリトシ從來ノ日本武力干涉ノ歴史ヲ述ヘ劇烈ナル日本攻撃演説ヲ為シタル後日本ハ露國ノ沿岸ヲ奪取シ樺太ヲ盜ミ反動政府ヲ支持シ常ニ「プロヴォケーション」ヲ行ヒ且不当ノ要求ヲ為シ極東ヲ其ノ殖民地ト為サムトシ極東政府攻撃ノ系統的案ヲ実行シツツアルモ各國ハ之ニ何等注意ヲセストノ世界各國民及政府ニ對スル抗議ト極東共和国人民ニ對スル檄文ヲ決議シタル旨十日「ダルタ」通信ハ公表シタルカ十三日当地社會黨新聞ハ右通信ヲ掲載シ社説ニ於テ同様ノ論說ヲ為シ殊ニ「ノーウオスチヂーズニ」ハ大活字ヲ用ヒテ反日宣伝ヲ為シ居レリ

尚十二日当地通過チタニ向ヘル「ブリュヘル」ハ白色「パ

ガ國務省ハ本件ニ付テハ本使ニ報告スル様同領事ニ訓令シタルヲ以テ同領事ハ報告ノ為メ近ク來京スル筈ナリ從來日本ガ白軍ヲ援助シタルコト無キハ閣下ヨリ度々承ハリタル所ニシテ日本政府ノ態度ハ好ク諒解シ居ルモ右ノ如キ報道アルヲ以テ一応御話スル次第ナリト述ヘタルニ付本大臣ハ右永久駐兵ノ要求ナルモノハ全然虛説ニシテ露領ニ永ク駐兵スルハ日本ノ極メテ迷惑トスル所ナルヲ以テ出來得丈速カニ撤兵セムト欲シ「チタ」政府ト交渉ヲ開始シタル次第ナリ又日本軍カ白軍ヲ援助セリトノ点モ事實ニ反シ齊多側ノ宣伝ニ外ナラザル旨ヲ説明シ置ケリ

在米幣原大使へハ

「在歐各大使、瑞典、波蘭へ転電アリタシ」

在浦潮總領事へハ

「永井、杉野、郡司へ伝ヘラレタシ」

一〇〇〇 十二月二十九日

内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)
宛(電報)

極東共和国ノ反日宣伝ニ関シ抗議申入方訓電

ノ件

第七〇号

過日齊多国民議會ノ決議シタル人民ニ対スル檄文中ニハ明カニ日本人ヲ以テ唯一ノ敵ト為シ外國軍隊及反動派ノ軍隊ヲ掃蕩スル迄奮闘ヲ継続スヘシトテ戦線及背後ニ於ケル犠牲ヲ要求シ又世界各国国民ノ政府ニ対スル檄文ニハ日本ハ露領ヲ占領シ利権ヲ奪取シ干涉ノ口実ヲ作ランカ為内乱ヲ煽動シ「セメノフ」「メルクーロフ」ニ兵器ヲ供給シ大連會議ニ於テハ駐兵ニ対シ承諾ヲ求メ韃靼海灣地方ノ事實的割譲ヲ要求シ其他条件ノ苛酷ナル之ヲ承諾セハ極東共和国ハ主権ヲ喪失シ日本ノ権力下ニ置カルルニ至ラントテ何レノ

国モ日本ノ侵略ヲ防止セス却ッテ行動ノ自由ヲ認ムルヲ非難シ齊多代表者ヲ参加セシメサル「ワシントン」會議ノ決議ヲ否認ストノ趣旨ヲ述ヘ居レリ

右ノ如ク事實ヲ誣ヒ我方ニ敵対宣伝ヲ行フハ大連會議進行中ノ此際不都合極マルニ付貴官ハ「ベトロフ」ニ対シ齊多側ノ不信ノ態度ヲ責メ今後国民議會其ノ他ニ於テ此ノ種不都合極マル措置ヲ繰返サシメサル様取計方嚴重申入レラレタシ

事項二一 薩哈噠州占領地域施政關係一件

一〇〇一 一月十八日 薩哈噠州派遣軍參謀長ヨリ
陸軍次官宛(電報)

ニコライエフスク方面ノ政情等ニ關スル情報

報告ノ件

十八日薩參二六 (一月二十一日陸軍省ヨリ写接受)
過般來尼港代表者ノ通信及尼港ヘ到着セル各地ノ電話文書等ニ依リ調査セルトコロ大要次ノ如シ

一、尼港及「ソフィスク」ニ至ル間ノ各部落ハ平穩ナリ然シテ目下同所ニ於ケル政治的代表者ト称シアルハ「ケルビ」ニ於ケル軍代表者タリシ「プロカペンコ」ニシテ目下「マリンスク」ニ根拠ヲ置キ勢力拡張ニ努力中ナルモ「ボリシエミハイロスク」以北ニ於ケル各村落人民ノ信用大ナラス彼ニ反對シアリ

二、元「トリヤピーチン」一派タリシ無政府主義者「デードボノマレヨフ」ナルモノハ哈府南方約六十露里「ウヤツスキ」ニ在リテ自ラ尼港哈府地方軍參謀長ト称シ過

二二 薩哈噠州占領地域施政關係一件 一〇〇一

激ノ命令ヲ下シツツアリ

三、内務大臣「ヅナーメンスキ」ハ「プロカペンコ」及薩哈噠州委員ニ対シ薩哈噠州ハ極東共和国ノ一部ナルモ目下日本ノ圧迫ヲ受ク前ニ極力薩哈噠州及沿海州ヨリ其ノ勢力ヲ排除シ州革命委員會ニテ此ノ地ヲ支配スヘキヲ希望シ尚同州代表者ヲ哈府會議ニ召集スルコトヲ命令セリ

四、新治黑竜州ノ境界ハ「ハバロフスキ」「イマンスキ」及「ウドスキ」ノ諸郡並ニ黑竜州ノ一部ナル旨發表セリ

五、各村落ハ稍ヤ日本軍ノ再来ヲ顧慮シ躊躇ノ傾アルモ代表者ヲ出ス事ハ目下ノ形勢止ムヲ得サルモノトセリ

尼港代表者ハ召集委員會ニ出席スルノ可否ヲ当司令部ニ伺ヒ來レルヲ以テ諸情況ヲ蒐集報告スルノ条件ヲ附シ任意召集ニ応セシメタリ

六、尼港代表者ハ「チタ」政府ヨリ送附シ來レル諸情報ニ